

参加
無料

頭のけがや病気のあとにおこる コミュニケーションのしづらさについて

意思疎通における困難さは言葉がうまく出ない失語症だけでなく、注意障害、社会的行動障害といった認知・行動面の後遺症に起因する場合があります。コミュニケーションが苦手になるメカニズムと実際の支援現場においての工夫や関わり方をお話いただきます。

【開催日時】 令和8年11月8日（日）13：30～16：00
（受付 13：00～）

【会場】 堺市総合福祉会館 6階ホール
【定員】 200名

講演① 「高次脳機能障害におけるコミュニケーションのしづらさについて」

講師 藤原麻美子氏（言語聴覚士）

講演② 「コミュニケーションのしづらさについて

～当事者と関わる現場からの報告～

講師 石原明美氏（言語聴覚士）

対談 藤原麻美子氏、石原明美氏、生活リハビリテーションセンター職員

藤原麻美子氏

（目白大学 保健医療学部 言語聴覚学科 助教）

堺市立総合医療センターにて長年にわたり言語聴覚士として臨床に従事され、高次脳機能障害をはじめとするリハビリテーション医療に豊富な経験を有する。保健学博士。現在は目白大学言語聴覚学科において教育・研究活動に携わるとともに、つくのすえまクリニックにて高次脳機能障害の診療を担当されている。また、青年海外協力隊としてモンゴルに派遣され、障害児・者への言語聴覚療法の提供に加え、現地スタッフへの専門的指導や研修支援にも取り組まれている。

石原明美氏

（デイサービス ことばの泉 施設長）

言語聴覚士として医療・保健・介護の各分野で豊富な実践経験を積む中で、失語症のある方の退院後の生活支援や社会参加を支える場、相談体制の重要性を実感され2005年に会社を設立し、翌年には堺市で失語症特化型通所介護施設「デイサービスことばの泉」を開設。失語症のある方が充実した生活を送れるよう、必要な活動の実践と情報発信に取り組まれている。

【申込方法】 当日資料が不要の場合は事前の申込みは不要です。直接会場にお越し下さい。



当日、資料が必要な場合は、二次元コードまたはチラシ裏面の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、メールまたはFAXにて事前にお申込みください。

【申込期間】 令和8年9月1日（火）～11月6日（金）

※ 要約筆記・手話通訳あり。

【問い合わせ】 堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター（中岡・西脇）
（TEL）072-275-5019 （FAX）072-243-0202 （メ-ル）seikatsu-reha@sakai-kfp.info

主催：堺市（障害施策推進課）

運営：健康福祉プラザ指定管理者（堺市社会福祉事業団・堺障害者団体連合会・フィットネス21事業団 共同事業体）

頭のけがや病気のあとにおこる コミュニケーションのしづらさについて



申込みはこちら

参加申込書

※申込み締め切り: 令和8年11月6日(金)まで

【申込み方法】二次元コードにてお申込み下さい。メールまたはFAXでのお申込みも可能です。

(メール) reha-kensyu@sakai-kfp.info (FAX) 072-243-0202

堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

お 住 ま い 又は 所 属 機 関 住 所	堺市（堺区・中区・東区・西区・南区・北区・美原区） ※該当する区に○をつけてください その他市町村（市・町・村）
所 属 機 関 名 （支援者の場合）	
研修を知ったきっかけ	広報さかい・イオンモール・研修会チラシ・ホームページ・その他（ ）
お名前（カタカナでご記入ください）	該当するものに○をおつけ下さい
1.	当事者・ご家族・その他（ ） 支援者（職種： ）
2.	当事者・ご家族・その他（ ） 支援者（職種： ）
3.	当事者・ご家族・その他（ ） 支援者（職種： ）
*研修会参加にあたり配慮を要することがございましたらご記入ください。	

※当日午前10時の時点で、堺市内に「特別警報」、「暴風警報」が発令されている場合、中止とさせていただきます。

警報の発令やその他の天候の状況等により開催が中止の場合は、当センターホームページの「研修会情報」にてお知らせします。

【堺市総合福祉会館 アクセス】

堺市 生活リハ

← 名前でも
検索できます



← 生活リハ
ホームページはこちら



※ご記入いただきました個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切に取り扱います。

※記録のため、講演会の様子を撮影いたします。

主催者が撮影した写真・映像は当センターの情報誌、ホームページに使用させていただくことがありますのでご了承ください。

【堺市総合福祉会館 アクセス】

南海高野線「堺東」駅下車 700m

※ 駐車場に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。